

# 平成26年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	愛媛大学教育学部附属特別支援学校
-------	------------------

## I 概要

### 1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input checked="" type="checkbox"/>	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input type="checkbox"/>	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
国立大学法人 愛媛大学	特別支援学校	知的障害	えひめだいがくきょういくがくぶふぞくとくべつしえんがっこう 愛媛大学教育学部附属特別支援学校

### 2 研究課題

特別支援学校小学部・中学部・高等部の系統的なキャリア教育の推進及び就労支援体制の構築

### 3 研究の概要

本校は教育目標「たくましく生きぬく力の育成ーすべての子どもの自立と社会参加、就労の実現を目指すー」の具現化を目指し、平成20年度より5か年にわたり、「卒業後の『働く生活』を実現するために」という研究主題を掲げ、キャリア教育の視点に立った研究実践を進めてきた。また、全国に先駆け、愛媛大学と連携しながら卒業生徒の大学職員としての雇用を推進し、実現してきた。

これまでの本校のキャリア教育の研究実践及び実績の積み重ねの上に立ち、本事業を活用することにより、就職支援ネットワーク会議の設置と実施、就職支援コーディネーターの配置等を行うことで、校内の就職支援体制の基盤がさらに充実するとともに、キャリア教育の視点に立った新しい教育活動の展開やハローワーク等の関係機関との新たなネットワーク構築につながると考える。就職支援コーディネーターの配置と支援活動は、生徒の実態に即した多様な就労の機会の保障や大学や企業等に就労した卒業生のアフターフォローの充実につながる。また、アフターフォローの成果を校内の教育活動に還元することで、校内作業と現場実習、就労現場が有機的にリンクした教育活動の実践につながると考える。さらに校内においては、作業学習を中心とした授業改善及び保護者や教職員に対する研修を充実させることで、キャリア教育・職業教育をさらに推進する。

以上の成果を取りまとめることで、就労現場と特別支援学校がリンクした系統的なキャリア教育の推進モデルとして、県内外に多くの知見を発信できると考える。

## 4 研究の成果

### <モデル地域における取組>

#### (1) 就職支援ネットワーク会議の設置と実施

- ・ハローワーク等、本校生徒の就労に関わる機関の関係者12名と本校教職員10名で組織
- ・年3回実施（授業参観及び協議）

会議では、就職支援コーディネーターの活動状況や本校における授業改善の取組など本事業の進捗状況について報告・協議し、貴重なご助言やご提言をいただいた。本校における新しい取組として実施した接客業務体験やデュアルシステム型実習について、本会議に参加している関係の事業所と連携して取り組むなど、本ネットワークを効果的に活用することができた。事例検討では、本ネットワークの組織を生かし就労移行支援事業所と雇用契約を結ぶなど、会議を組織したことで、就職支援体制が充実し、成果を挙げることができた。

### <モデル校における取組>

#### (1) 就職支援コーディネーターの配置と支援活動

- ・現場実習先や進路先の新規開拓
- ・卒業生のアフターフォロー（本校を卒業して10年以内の者）
- ・就職支援ネットワーク会議の企画・運営
- ・現場実習や就労移行実習及びデュアルシステム型実習における巡回指導

就職支援コーディネーターは、進路指導主事やハローワーク等と連携し、生徒や保護者のニーズに合わせて関係の事業所237社（3月10日現在、延べ数）を訪問するなど、本事業の中心となって活動し、多くの成果を挙げた。12月末現在で進路先が未定であった生徒についても、就職支援ネットワーク会議に参加した関係機関と連携をとり、新規に開拓をした事業所に就職が決定した。

#### (2) 外部講師を活用した授業改善

- ・作業学習（クリーン班）における授業改善
- ・接客業務体験（喫茶サービス）における授業改善

外部講師を招へいし、生徒に直接指導をしていただくことで、スキルや学習意欲が高まった。就職支援ネットワークに参加した関係機関の全出席者から高い評価を得るなど、効果的な学習活動となった。

#### (3) 大学と連携した授業改善

- ・デュアルシステム型実習
- ・地域の地場産業（伊予かすり）を取り入れた製品作り（作業学習）

デュアルシステム型実習では、職場と学校が生徒の課題を共有し、連携して取り組むことで、本人の意識やスキルが高まり、その職場への内定につながった。「伊予かすり」を取り入れた製品開発では、製品の質が向上するとともに、新聞等への情報発信やアンテナショップの開店により、地域に貢献することができた。

#### (4) 技能検定への挑戦

- ・7名の生徒が「笑顔のえひめ特別支援学校技能検定」に挑戦

- ・清掃サービス部門（机拭き）で1級に合格（1名）
- ・清掃サービス部門（水拭きモップ）で3級に合格（2名）、4級に合格（1名）
- ・清掃サービス部門（自在ぼうき）で3級に合格（2名）、4級に合格（1名）

検定を受けることで自信につながり、さらに上の級を目指そうという意欲が高まるなど、効果的な取組となった。

#### （5）教職員・保護者への就職支援に関する研修会の実施

- ・ハローワークや障害者就業・生活支援センターと連携した研修の実施
- ・新規に実習を受け入れていただいた企業担当者による研修の実施
- ・就労移行支援事業所と連携した研修の実施

ハローワークの役割や最近の雇用情勢の動向、小学部段階からのキャリア教育の必要性等の理解を深めることができた。特に保護者へのキャリア教育の研修会は、初めての試みとなり、卒業後の働く生活を実現するために、家庭で取り組むべき支援についての意識を高めることができた。アンケート調査では、100%の保護者より、研修について「大変よい」「よい」という評価を得た。

## 5 課題と今後の方策

就職支援ネットワーク会議の提言等により、次の点が課題として挙げられた。

- 高等部における就職率の向上
- 新規雇用先の開拓
- 教職員及び保護者への研修のさらなる充実
- 地域連携から地域貢献への取組
- 卒業生就労後のアフターフォローの充実
- 外部専門家の積極的な活用（授業改善）
- 作業学習における製品の質の向上（授業改善）

今後の方策として、本事業を来年度も継続して行うことで、解決につなげたい。具体的には、下記の2点に取り組んでいきたい。

（1）「就職支援ネットワーク会議」の設置や「就職支援コーディネーター」の配置により、関係機関・民間の企業等の外部専門家の助言に基づいたさらなるキャリア教育の推進が可能となるとともに、校内の就職支援体制が充実することで、就職率の向上が期待できるであろう。また、このネットワークをさらに活用し、本校卒業生や在校生の相談機関として活用する。外部専門家を教職員や全校保護者を対象とした就職支援研修会の講師として招へいし、学校と家庭が協力しながらキャリア教育を推進することができる。そしてこれを基に、学校・家庭・地域が三位一体となった教育実践の基盤形成につながり、早期からのキャリア教育等の推進に拍車がかかる考える。

（2）授業改善や教職員等への研修の充実により、児童生徒のキャリア発達をさらに支援することができるであろう。

本年度、企業等のニーズや事情を踏まえた授業の改善・充実を目指して、企業や専門家と連携した接客業務体験の実施や、大学と連携し地域の伝統産業である「伊予かすり」を

取り入れた作業製品の開発等を行ってきた。来年度はその成果を基盤として、附属小学校や附属高等学校で作業製品販売やカフェコーナーの開店を行うなど、活動を拡大、定着させたい。これらの取組により、スキルの定着や成功体験の積み重ねにつながり、生徒の自信と「働く意欲」が高まると考える。また、質の高い製品作りや地域の伝統産業を広めていくことで、本校が目指している地域貢献にもつながるであろう。

そして、本年度の新しい取組として、現場実習等の就業体験の機会の拡大を目指し、大学との連携によるデュアルシステム型実習（清掃作業）を試行した。このシステムの成果について、本年度の就職支援ネットワーク会議に報告した。これを受けて、参加した数か所の事業所から「希望する生徒がいれば受け入れ可能である」との回答を得た。生徒のニーズを踏まえ、実習先の事業所や就職支援ネットワーク会議の参加事業所等と連携し、実績を積み上げながら、効果的な連携や研修の在り方を模索したい。

教職員の研修については、デュアルシステム型実習と連動する形で、企業等での職業体験研修を組み入れるようにしていきたい。